

2014年12月7日 主日礼拝

説教「光の到来」

イザヤ書9章1-7節

【万軍の主の熱心が】

「万軍の主の熱心がこれを成し遂げる」(7)には驚かされます。神さまが熱心だと書いてあります。私たちを救うことに、神さまが熱心。熱心とは、熱い心と書きます。神さまは熱い心の持ち主。熱い心で私たちを救ってくださるお方。

【光の到来】

神さまは、熱い心をもって何をしてくださるのでしょうか。「やみの中を歩んでいた民は、大きな光を見た。死の陰の地に住んでいた者たちの上に光が照った」(2)。それは光を与えてくださること。光が照ると、照らされた者は闇から解放されます。イザヤは神さまが、アッシリヤの支配からイスラエルを解放してくださると預言しました。「ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が、私たちに与えられる」(8)。イザヤはばくぜんとしか知らなかったのですが、この預言にはさらに大きな意味がありました。このみどりごは、主イエスのことを指していたのです。

【神さまの思い】

「ケセン語訳聖書」のヨハネの福音書。

1:1 初めに在ったの

神さまの思いだった。

思いが神さまの胸に在った。

その思いこそ神さまそのもの。

1:2 初めの初めに神さまの

胸のうちに在ったもの。

1:3 神さまの思いが凝(こご)って

あらゆる物ア生まれ、

それ無しに

生まれた物ア一つもねア。

1:4 神さまの思いに

あらゆるものオ生がす力ア有って、

それア又、

生きる喜びイ人の世に

輝がす光だった。

1:5 光ア人の世の

闇イ照らしてだったのに、

闇に住む人アその事に

気ア付かねアでだったんだ。

ここでは「ことば」を「神さまの思い」と訳しています。主イエスは「神さまの思い」そのもの。3節にあるように、すべてのものは主イエスによって造られました。神さまの思いが凝って、主イエスの愛がぎゅっと固まって、すべてのものが出来ました。そして主イエスには「いのち」があります。ケセン語訳では、「いのち」は「あらゆるものオ生がす力」です。そしてそのいのちは、「生きる喜びイ人の世に輝がす光」なのです。

【光の中の私たち】

すでに光の中に生きる私たち。私たちの生き

方は、光の中の生き方です。イザヤ書9:6には、「平和の君」とあります。この平和はシャローム、という言葉。ただ戦争がないという意味の平和ではありません。そこには「心の平安」が含まれています。主イエスはこの平和を、神との間に生み出すために来てくださいました。また、人と人との間に生み出すために来てくださったのです。

神さまの思いである主イエス。主イエスには、あらゆるものを、生かす力があります。私たちが神さまから遠ざけるもの、それがなんであろうと、それを取り除く力があるのです。そして、私たちに、生きる喜びを輝かせてくださいます。生きる喜びは、神さまとの平和にあります。また、兄弟姉妹たちとの平和にあります。主イエスには私たちを、ますます神さまとの平和に、ますます仲間たちとの平和に進ませる力があるのです。

クリスマスは、神さまの思いが凝って地上に来てくださった日。神の御子が十字架を覚悟の上で人となってくださった日。御子の前に、天も地も息を呑んで、ひれ伏すような、そういう厳粛な日なのです。

私たちは、御子が十字架であがないとってくださった、たいせつなおたがいです。神のみ思いが凝ったようなたがいを喜び合い、たがいをますます慕い合いながら、ともに主の聖餐の食卓を囲みます。